

経皮的鋼線締結法による低侵襲手指骨折治療法の評価

1. 研究の対象

2013年1月～2019年11月の期間に当院形成外科で手指骨折に対して鋼線締結による観血的整復固定術を施行された方

2. 研究目的・方法

手指骨折への鋼線締結による治療は、骨折部の圧着力を得ることができる優れた方法の一つですが、軟部組織への侵襲が比較的大きいのが問題です。軟部組織の温存は、術後の創治癒期間の短縮だけでなく骨癒合のためにも重要です。

我々は以前から鋼線締結の術式の改良を試みており、この問題点の改善に取り組んできました。本研究ではこれまでに得られた症例を検証し、我々の術式の有効性、合併症の有無等を調査します。本術式の有効性が確認できれば、鋼線締結法の術式の改善に寄与すると期待されます

研究の方法は2013年4月～2019年3月の期間に当院形成外科で手指骨折に対し観血的整復固定術を施行された方の診療記録を参照する後ろ向き研究です。研究期間は学校長承認後から2024年3月です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、病名、手術方法、写真・画像データなどの診療情報を研究対象として用います。新たに血液などの試料を採取することはありません。研究には年齢、術前・術後の写真、手術中の写真などの情報を用いますが、すべて対応表ありの匿名化を行います。学会発表や論文執筆の際には個人識別ができないようにします。個人情報の保護には最大限配慮いたします。

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への情報の提供は、電子的配信によって特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当講座の個人情報管理者が保管・管理します。

5. 研究組織

防衛医科大学学校病院 形成外科 清澤智晴、長野寿人
医療法人社団永生会 南多摩病院 青木伸峰

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校形成外科 清澤智晴（研究責任者、研究代表者）

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

（電話）04-2997-5156